令和7年度　学校だより12月号（令和7年11月28日）

平山小だより

http://www.e-hirayama.hino-tky.ed.jp/

発行：日野市立平山小学校
校長　北里　浩一
TEL 042-592-6381
FAX 042-592-6382
〒191-0043東京都日野市平山 4-8-6

共生社会の実現

校長　北里　浩一

冬の訪れを感じる日々が続いています。今年の秋は短かったように感じています。また例年より早いインフルエンザの流行に対して、学校全体で感染症対策を継続して行っています。引き続きお子様の健康管理をお願いいたします。

さて 11 月 15 日～26 日には、日本では初めて「東京 2025 デフリンピック」が開催されました。世界各国から全体で約 3000 人の選手、そして日本選手団は 273 名が参加しました。競技は陸上競技、バドミントン、バスケットボール、サッカー、ゴルフ、ハンドボール、水泳、卓球、テニス、バレーボール、レスリング等、全 21 競技です。オリンピックやパラリンピックと同様に４年に一度世界中のアスリートが集まり競い合います。

デフ（Deaf）とは英語で「耳が聞こえない」という意味で、デフリンピックは聴覚障がい者が参加する国際スポーツ大会です。デフリンピックを創設したのはフランス人のユジューヌ・ルーベンス・アルケ氏。きっかけは、彼が幼児期に熱病で聴覚障がい者となったことにより、聴覚障がい者の社会地位向上と手話言語の理解促進を目指し、聴覚障がい者のための国際スポーツ大会を提唱したことで、1924 年にフランスで第１回大会を開催しました。競技中は音の合図の代わりに、光のサインや手旗、手話などを使用してスタートや判定を行います。全ての選手が平等に力を発揮できるように、補聴器等は使用しないというルールの下で競います。

障がい者の国際スポーツ大会と言えばパラリンピックもあります。パラリンピックは肢体不自由、視覚障害、知的障害の選手が出場可能で、聴覚障害の選手は出場できません。
その理由はデフリンピックはパラリンピックよりも歴史が古く、パラリンピックが始まった時には聴覚障がい者専用の国際スポーツ大会「デフリンピック」が開催されていたからです。

先日の東京大会では、私も試合会場に足を運び、国内外の様々な選手が自分のもっている力を十分に発揮し、全力でプレーする姿に感動しました。観客の応援も視覚的に分かりやすい工夫がされていました。デフリンピックの大会ビジョンの一つが、「誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会の実現」と掲げられています。デフリンピックをとおして、いろいろな違いを認め合い、互いに支え励まし合うことの大切さとともに、違いは個性であることを強く感じました。

昨年度策定された日野市が目指す「第４次日野市学校教育基本構想」でも、方針の一つとして「共生社会の実現」を掲げており、本校の教育活動においては、通常学級児童とわかくさ学級児童が様々な場面で交流し、活動をともにしています。たてわり班活動、クラブ活動、委員会活動、行事だけでなく、教科学習でも共同学習を進めています。昨年度からは体育の授業でも学年、内容に応じて共同学習を進めています。また４年生では総合的な学習の時間において、福祉や障がい者理解をテーマに学びを進め、「共生社会の実現」のために自分にできることを考えています。各学級においても様々な個性が在籍しています。よいところ見つけや人権標語作成等の人権教育を着実に推進し、それぞれの個性を知り、認め、支え合っていくこと、そして「自分とあなたを大切にする学校」の実現こそが「共生社会の実現」につながります。ご家庭でも話題にしていただけますと幸いです。

間もなく師走を迎えます。子供たちは２学期も行事や学習、生活の中で成長した姿を見せてくれました。保護者ならびに地域の皆様には本校の教育活動にご理解と多大なるご支援をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。どうぞよいお年をお迎えください。